

宮川・水上地区のまちづくり

この地区で目指す姿

広域から人を呼び込み、多彩な交流と新たな価値を生み出すまち

実現に向けた主な取組

1. 宮川・水上地区区画整理

- 道路・区画造成等の基盤整備により、交流施設の整備や企業立地を促進し、広域から人が集う活気あるまちを形成します。

2. 宮川・水上地区都市再生整備計画の策定

- 公園や調整池を活用した地域主体のエリアマネジメントにより、交流促進と住環境の形成を図り、持続的で魅力あるまちづくりを進めます。

こんなことが実現されます

- 商業や食と農、スポーツ、エンターテインメントを通じて、多彩な体験や交流を楽しむことができる。
- 広域から訪れる人々や地域住民、企業、大学等との交流の場が創出され、新たな学びや活動の機会を得ることができる。
- 多種多様な施設が立地することで、若い世代をはじめ幅広い人が地区で働くことができる。

宮川・水上地区周辺図

凡例： ハードの取組 ソフトの取組

※各取組の詳細は取組名をクリック！



取組概要

土地区画整理事業を推進し、公共施設を整備することで、広域から多くの人を呼び込む交流拠点を創出し、地域の活性化や雇用機会の拡大を実感できるようにする。

- ・ 現在、市街化されていない平坦でまとまりのある土地が存在しているものの、雇用創出や交流人口の拡大につながる土地活用が十分に図られていません。
- ・ アクセス道路等の公共施設を整備をすることで、人を呼び込む交流拠点を創出し、企業立地や交流機能の導入に必要な都市基盤を整備します。
- ・ 公共施設を整備することで、交流施設の整備や企業立地が段階的に進み、市内外の広域からも多くの人を訪れ、活気あるまちが形成されます。



区画イメージ写真

今後の予定

	2026年	2027年	2028年	2029年	2030年	2031年	2032年	2033年	2034年	2035年
基盤整備	公共施設(道路、調整池等) 2029年度:都市計画道路 広野大谷線(4車線化)供用予定									
企業立地	造成・建築(民間用地)									

⑦都市・社会基盤

目指すべき未来像

都市基盤と多様な都市サービスが連動し、誰もが住みやすく、移動しやすく、居心地の良い空間が備わったまち

現状と課題

・静岡市では、地域の経済的活力を高めるために必要な土地利用に関する規制緩和の取組が十分に行われてきませんでした。このため、耕作放棄地などの未利用・低利用地が多く、多くの地域で点在する状況となっています。また、都心部では建物の老朽化や空き店舗の増加が進み、まちの魅力が低下する一因となっています。

・人口減少に伴い空き家が増加しており、今後も増加が見込まれます。静岡市は周辺市町と比べ、家賃や土地価格が高いため、若い世代の住まい確保が難しく、定住の課題となっています。また、移動需要の減少に加え、生産年齢人口の減少に伴う担い手不足により、路線バスなど中量輸送を担う公共交通の維持が困難となっています。持続可能性と利便性を両立させた、新たな地域公共交通体系の構築が急務です。

・防災面では、南海トラフ地震や激甚化・頻発化する自然災害へ対応するため、道路・河川・上下水道などの社会基盤整備と災害時の情報収集・提供や応急対応資機材の備えなどの体制強化が課題となっています。公共インフラの老朽化による維持管理コストの増大も大きな課題となっています。

由比・蒲原地区の まちづくりの推進

★取組概要

由比・蒲原地区

由比・蒲原地区において、地域資源を活かして住民や企業と連携した取組を進めることで、「自然・食・歴史・文化」を生かした仕事や体験をまちなかで楽しめ、市民や来訪者が心豊かな暮らしや多様な交流を実感できる。



国登録有形文化財「旧和屋」



「由比本陣公園」

静岡都心地区 まちなか再生の推進

★取組概要

おまち周辺

静岡都心地区において、めざすべき姿を「まちなか再生指針」により共有し、公民共創による職・住・福・商・学・遊といった機能が身近に揃う、一体的なまちづくりを進めることで、まちなかの利便性や暮らしの質を向上させる。



青葉シンボルロード実証実験の様子



青葉シンボルロードの将来像(イメージ)

宮川・水上地区都市再生 整備計画の策定

★取組概要

宮川・水上地区

土地区画整理事業で整備された公園や調整池などの公共施設を有効活用し、民間主体のエリアマネジメントにより、交流機会の拡大、良好な住環境の維持・向上を図りながら、持続的で魅力あるまちづくりを進めていきます。



都市再生整備計画区域(宮川・水上)



公園イメージ: 豊田原山公園

課題解決のための
具体的な取組

